

## 「畸形嚢腫」

深夜に急患が運び込まれる。どこの病院・医師でも手術ができないということで主治医が秘密裏にブラック・ジャックに依頼してきたのだ。

患者は、正体を明かせないという若い女性。診断は畸形嚢腫。ブラック・ジャックが「なぜこんなにでっかくなるまで切らずにほっといたんですかね？」と主治医に問うほど腹部の嚢腫はすでに巨大化していた。主治医の答えはにわかには信じられないものだ。いざ手術となり切ろうとすると、立ち会ったものが突然おかしくなるという。「たぶんあの嚢腫ののろいのためです」。

そんなことは信じないブラック・ジャックによる手術が始まり、嚢腫にメスを入れようとしたその時、ブラック・ジャックは突然の頭痛に襲われる。「切るな！切るな！」という叫び声が脳内に響く。七転八倒、手術機器に頭突きし、チューブで自ら首を締めるという、奇行に及ぶ羽目になる。それでも嚢腫を切ろうと必死に立ち向おうとすると、メスを持つ腕が勝手に動き、自らの喉仏にメスを突き立てる寸前にまで追い込まれる。

ブラック・ジャックは観念し嚢腫に語り掛け、切除するだけでなく培養基に移し替えて生かすと誓うと、念力による干渉は止まり、手術は成功した「図1・2」。

摘出した畸形嚢腫は、診断書通り人間を構成する全ての内臓、手足がそろっていた。ブ



図1



図2

ピノコ誕生の裏に見えた真実!?

ラック・ジャックは、これを組み立てることを思いつき、合成繊維などで補いつつ手術をした。

この「手術」の一年後、患者の最終診察日に、ブラック・ジャックは患者に一人の少女と対面させる。「あなたのいもうとさんですぞ。同じとしのね」。「妹」と聞いて動揺する患者に、少女はこの患者のことを激しく罵り、一方患者は「いやらしい子」と強く拒絶する〔図3〕。患者は去り、そして少女ピノコはブラック・ジャックの元へ残ったのであった。

## 現代医学から整理する

### 「お多福面」の患者の診断について

作品を虚心に読めば、作中の患者（ストーリーではピノコの「姉」とされている、お多福面を終始かぶっていた人物）に下された診断名である「畸形囊腫」は、現在でいう卵巣奇形腫であることは比較的容易に察しがつく。

一般論として奇形腫自体は、性腺（卵巣、精巣）から発生するものが半数以上を占め、また卵巣や精巣以外にも発生する。<sup>①</sup> 具体的には、松果体

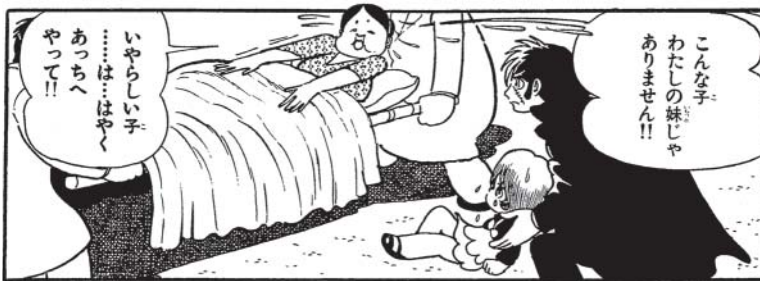


図3

付近の頭蓋内、頸部、縦隔、後腹膜、仙尾部などである<sup>(1)(2)</sup>。また、作品の物語では良悪性を議論はしておらず、長い期間放置された嚢腫の「大きさ」を問題にしている文脈であることが察せられる。逆に言えば、ごく短期間のうちに生命を脅かしているというわけではない。生命が脅かされないままに嚢腫が肥大していくという振る舞いからすると、おそらく良性であろうかと思われる。

奇形腫であつて、かつ良性であれば普通は成熟奇形腫のことを指す。成熟奇形腫は、色々な胚葉由来の成熟した組織から構成される腫瘍で、皮膚、髪、歯、気管支、腭組織などが充満している。これは、作中の、嚢腫の中にだいたい一揃いの人間のパーツが詰まっているということと一応は対応する。よつて、作中の腹部腫瘍がもし奇形腫であれば成熟奇形腫と思われる。

今作品の場合、タイトルに「畸形嚢腫」とあり作品中の患者の主治医も「畸形嚢腫」と診断を述べており、私も素直にそう捉えていた。しかし……

### 本当に「畸形嚢腫」でよいか？

この問いは根源的な問いだが、実はこう問い直してみると、今回の作品が「ピノコ誕生の秘話」という memorial な回とされたその裏に、非常に複雑で広大な考察ができるテーマが隠されていることに私は気づいた。

問い直すというのをもう少しわかりやすくいうと、臨床医らしく、「畸形嚢腫」の鑑別診断を考えてみたのである。すると、この症例が「奇形腫、teratoma」であるとシンプルに考えた時に、矛盾する点がいくつかあることに気づく。

### 奇形腫と考えた場合の決定的な矛盾点

まず今回の作品の最終場面、図4を見て欲しい。

これを見たらわかる通り、畸形嚢腫から取り出して作ったピノコのことを、ブラック・ジャックは患者（手術を受けた女性）の「妹」だと認識していたことがわかる。

この場面は、述べたように今回の物語の最終場面であり、なんとなく流れで自然に頭に入っていくってしまう場面ではある。しかし私としては、この図4があるかないかで、考察の流れが全く変わってしまった。この図4のために、私の今作品における病跡学的考察が非常に難航してしまったことをここに告白する。

さてこの「お多福のお面をかぶった、ピノコの姉とおぼしき患者」にできた病気が奇形腫と考えた場合の決定的な矛盾点とは何か。それは、もし奇形腫であると考えれば、ピノコはこの患者の妹ではないのである。作品を読む限り、このお多福面の患者はおそ



1.

図4 ブラック・ジャックが、畸形嚢腫から取り出して作ったピノコのことを、患者（手術を受けた女性）の「妹」であると認識していたことがわかる場面

## 「本間血腫」

バレンタインデーの広告をみせるためにピノコが持ってきた新聞を手にしたブラック・ジャックは、たまたま載っていた記事をみて表情を一変させる。記事によればプロ野球球団「エラーズ」の山上投手が「本間血腫」という希少疾患で入院したという。ブラック・ジャックはこの病名に反応したのだった。

まさにそのとき、山上投手の主治医からブラック・ジャックに電話がかかってきた。「新聞を読まれましたか?」。この医師は、ブラック・ジャックが本間血腫の知識を持っていることを前提に、ブラック・ジャックに多額の報奨額を提示して手術を要請する。しかし、ブラック・ジャックは本間血腫への特別な関心を持っていることも認めたくえで断ることを選択する。

実は本間血腫というのはブラック・ジャックの恩師である本間丈太郎医師が発見、命名した疾患であり、かつその患者を人体実験といわれるような新式の手術で治そうとし、しかし成功しなかったことで本間医師は病院を去る結果になったいわくがあったのだ。

ブラック・ジャックは本間医師の死後、残された膨大な本や資料を整理していると、その中に本間血腫の記録とともに、本間医師からブラック・ジャック宛に書いた手紙を見つけた。「この記録をもとに『本間血腫』のナゾをときあかしてもらいたい」「病気のナゾが

はっきりするまでけっしてきみがこの病気の患者を手術をしてはいかん。それ以来、ブラック・ジャックは恩師を引退に追いやった本間血腫が憎い！本間先生のかたきをうちたい！と研究を続けてきたのだった。

結局、一度は断ったブラック・ジャックだが、手術を決意した。ブラック・ジャックの勝算は研究に研究を重ねた自作の人工心臓だ。本間医師ですらできなかった、心臓の取り替えこそブラック・ジャックの奥の手だった。

手術が始まり心臓に達した時、ブラック・ジャックはとんでもない事実を目の当たりにする。山上投手はかなり前に別の医者から人工心臓を移植されていたのだ。ブラック・ジャックは自身の人工心臓よりも精巧な心臓を取り替えることをやめ閉胸した。

ブラック・ジャックは絶望した。それは、人工心臓を持ってしても再発してしまう本間血腫という病への敗北感だった。ブラック・ジャックは、本間先生の忠告を無視した自分の愚かさを呪うのだった。

# 現代医学から整理する

2.

## 本間血腫とは

始めに述べておくが、本間血腫という疾患はない。『ブラック・ジャック』の世界で手塚治虫が創出したであろう架空の疾患だ。本間血腫については、作中では図1のように説明されている。左心室内に血栓ができてしまい、いくら除去しても再発してしまう病気で、世界でも過去二〇数例しかない極めて稀な疾患だという。しかも転帰は全て「死亡」だという恐ろしい病気であるという設定である。

本間血腫に関する情報は、本間先生が生前ブラック・ジャックに宛てた書簡の内容「図2」からも読み取れる。内容は図1と似た内容になっているが、表1にそのまとめを示す。

## 本間血腫の真相に近づけるか

作品中、本間血腫の情報は実はこれだけではない。本間血腫が今日的に一体どのような疾患なのかの謎を解くための重要な手がかりが得られる資料が作中にある。それはピノコがブラック・ジャックに手渡した新聞である。本間血腫に罹った山上選手の記事の中をよく読むと、本間血腫の説明がされてあるのだ「図3」。

表1 本間血腫に関する情報のまとめ：本間先生の手紙より

- ・ごく稀である；ブラック・ジャックが生涯出会うかわからないくらい
- ・手術をしても(すると?)、心室内血栓が再発してしまう
- ・心機能が弱って死亡の転帰をとる病気
- ・病態の解明ができるまで、手術をしてはいけない



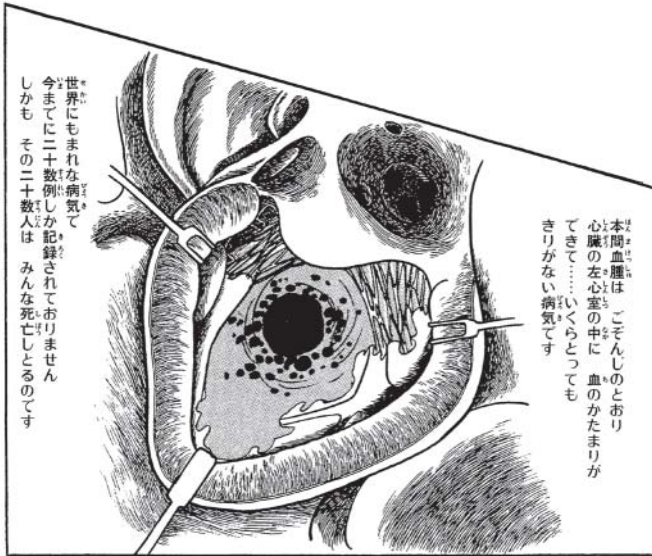


図1 「本間血腫」を説明した1コマ。



図2 本間先生からブラック・ジャックに宛てた手紙

本間先生のかたきをうつ、本間血腫の正体に迫る

あの心臓の中の血のかたまりは  
何度手術しても起こるのだ  
そればかりか 患者は心臓衰弱で  
死んでしまう だから ああ  
病気に手術はタブーだ  
いかに きみが天才だとして  
手術はしてはならん

この「記事」の中の本間血腫の説明として、「全身に潰瘍ができ血行がとまる」という記述がある。これが本間血腫の核心であると私は考える。

### 本間血腫は心臓病ではない？

あらすじ通りに読むと、本間血腫という病気がいかにも心臓の病気だと誘導されてしまふ。しかし図4によれば、本間血腫は「全身に潰瘍ができ血行がとまる」病気であるというのだ。これは、本間血腫が単に心疾患だとするには私には違和感がある。本間血腫は全身疾患なのではないかと私は考える。



2.

図3

ところで「全身に潰瘍ができ血行がとまる」というのは、(ロジックが)病態生理学的に少しおかしい。「血行がとまる」ことで、潰瘍ができるはずである。本間血腫は、少なくとも血行が不良になる疾患であると推測される。

次に「全身」というのは何を指すのだろうか。こればかりは作品をくまなく読んでも明らかにされなかった。「体じゅうの皮膚」なのか、それとも「諸臓器・多臓器の虚血」という意味なのか。ただし、「潰瘍」という表現が使われているので、これは「皮膚」のことではないだろうか。腸管や口腔内などの粘膜面にできる潰瘍でも本来なら可能性を残すであろうが、腸管粘膜をのぞく技術は当時一般的ではないだろうし、口腔内の潰瘍を持つて「全身」とは言わないであろう。思い切った想像をすれば、本間血腫は全身の皮膚に潰瘍ができてしまう疾患だったのではないだろうか。よって、非局所的な皮膚潰瘍と左心室内血栓の両方を生じうる疾患を考えれば良いことになる。血栓症については、左心室内の中は動脈血だから、動脈血栓症を考慮する。



図4 エラーズ・山上投手が本間血腫に罹患して入院したことを報じた新聞記事。山上投手が注目の選手なのは、契約金が高額だからということらしい。関係ないが、「診断名」や「入院先」まで新聞で報じてしまうのは、現在であったらとんでもない個人情報暴露である。とにかく致死的な重症疾患であることが窺える。

本間先生のかたきをうつ、本間血腫の正体に迫る

## 世界一簡単な動脈血栓の概論

2.

私は血栓止血学の専門家ではない。ある専門領域を理解するには専門家の総説記事が一番である。しかも、ここで話題にする血栓症というのは、「素因」や「環境因子」を扱うことになるから、なるべく人種や時代を揃える、つまり国内の文献が良い。そこで文献1の中から、動脈血栓の病態鑑別の表を抜粋してみた。以下、これを眺めるところから始める。

まず、血栓あるいは血栓症の理解の前提として、静脈血栓と動脈血栓は全く異なるものであるということを知るべきである。逆に言えば、静脈血と動脈血の大きな違いに対して自覚的でない人が多いような気がするのである。静脈血と動脈血の違いなど小学校から習い始めるくらい基本的な習得事項だというのに。

私は、「教え方」も悪いと思っている。「静脈血Ⅱ青、動脈血Ⅱ赤」のように塗り分け、酸素が少ない血液と多い血液、というように両者を対等に扱うように学校教育で刷り込まれてしまっているように思う。実際には、両者の決定的な違いは色ではなく「圧力」あるいは「流速」である。

動脈における血栓形成にまつわる主役は血小板であり、動脈血栓は「血小板血栓」と呼ばれる。または「白色血栓」と言われることもあるが、これは静脈血栓が「赤色血栓」と呼ばれることの対比である。静脈における血栓形成にまつわる主役はフィブリンと赤血球

であり、静脈血栓は「フィブリン血栓」と呼ばれる。つまりは動脈血栓と静脈血栓は、同じ「血栓」でも本質的に全く異なるということである。なまじセットで覚えてしまうために、かえって（一部の者に）混乱を与えている。

動脈血栓は、高圧力・高速血流状態の血管の中で生じる血栓である。そんな状態の中、血液がかたまつて血栓ができるということはよほどのことであり、非常に特殊な血栓とも言える。このことを加味しつつ表1をしてみると、大まかには、動脈硬化を中心とした動脈自体の問題、過凝固状態・粘稠度亢進状態、心疾患（弁膜症や不整脈など）、血管炎などの炎症性疾患、などに病態が分けられることがわかる。ここではこの表1の病名ごと一つ一つ説明したりはしない。

表1 動脈血栓の基礎疾患

I. 動脈硬化性疾患
高血圧
脂質代謝異常： 高LDLコレステロール血症，高Lp(a)血症
喫煙
糖尿病
加齢
閉経
高ホモシステイン血症
II. 血液粘稠度の亢進
脱水
骨髓増殖性疾患 (本態性血小板血症，真性多血症)
血管炎
ネフローゼ症候群
III. 生体内異物の存在
人工弁，血管置換術後
IV. 血行異常
発作性心房細動
大動脈弁狭窄症，など
V. その他
フィブリノゲン異常症 (Arg19-Gly)
(文献1、p482より抜粋)

本間先生のかたきをうつす本間血腫の正体に迫る

## 医学的再診断の試み

2.

さあ本間血腫の鑑別へ、病跡学的観点も含めて、

関心がある読者は、この時点でこの表の中から、全身の阻血・虚血で皮膚に潰瘍もできる疾患はどれだろうと思ひ始めているだろう。しかも本間血腫は非常に予後の悪い疾患であることもわかっている。

それを考えるにあたり、今回の作品の中で取り上げられた本間血腫の患者について振り返ってみる。作中では本間血腫の患者自身が現役のプロ野球選手であった。エラーズという球団の山上投手というキャラクターで、「今年度の巨額の契約金」が話題になっていたとある。これからわかることは、①山上選手は現役バリバリの選手である、②ルーキーが大物かはわからないが大変な実力者で、本来はまだまだ現役を続けるべき年齢である、③日頃はプロの世界でプレーできくらいのコンディションであつて特に身体機能に遅れをとつているようなことはない、といった情報が読み取れる。何気ない情報であるかもしれないが、私にとっては重要あるいは決定的な情報を与えてくれるものばかりである。

例えば、現役のプロ野球選手というなら大体二〇代〜四〇代前半ということになる。脂ののつたバリバリの選手だということであれば三〇歳前後くらいかもしれない。つまり、